令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜 2丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和2年10月9日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

立地は自然に囲まれ建物は1階建てのフロアに2ユニットあり入居者さん方の要望で共有部分は仕切らずに交流できるようになっています。それぞれのできる事を発揮し役割をもち助け合いながら笑顔で暮らしていけるよう支援しています。医療面においては看護と24時間連絡ができる状態であり協力医の往診もあり医療連携体制が充実しご家族の方も安心しておられます。今年度は新型コロナ感染予防のため外食レクや馴染みの美容院等にも行けずにいますが健康を第一に考慮し終息したら外出支援に力をいれたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、三陸沿岸道路のICに近く、産直、事業所、住宅が周辺にあり、地域住民から散歩時の声掛け、食材の提供、避難訓練時の支援をいただきながら、一方で、廃品回収への協力、福祉避難所の指定を受けるなど、地域との交流に取り組んでいる。運営に当たっては、法人が定めた運営理念、運営目標を職員間で共有し、家族の意向や利用者の要望を聴き取り、職員は利用者と支えあいながら、家庭的雰囲気のもと、共同の生活者として介護サービスを提供している。また、運営推進会議に、利用者一人一人の生活状況を報告し、助言、指導を得るとともに、行事や施設整備に関する職員の提案を受け入れ業務の改善、施設の拡充を行い、より充実したサービスを提供している。特に、看護師による終末期の指導や研修会を重ね、かかりつけ医による訪問診療を得て施設内での看取りを行うとともに、その振り返りを行って以後の対応に活かしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ室に提示し常に意識し実践につなげるよう努めている。介護記録にも綴りいつでも自分の介護の確認とふり返りができるようになっている。	法人の理念や目標を職員会議等を通じて共有するとともに、年度目標を定めて、家庭的な雰囲気を大切に、利用者と職員が共同の生活者として支えあい、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナの影響で交流はできていない。	散歩時の地域住民からの声掛け、食材の提供、避難訓練への支援をいただき、事業所も廃品回収への協力、福祉避難場所としての指定を受けるなどして、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナによりできていないが入居者の家族や入所相談に来た方に対しアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況、事故報告、入居者の生活の様子、行事関連、医療連携関係の報告を行い意見をいただいた事を報告書として職員に回覧し現場に活かしている。	利用者一人一人の生活状況を一覧表にまとめ、その状況を報告し、転倒防止、誤薬投与対策などの助言、提案を受け、介護サービスに活かしている。委員から花の苗の提供を受けて、利用者と一緒にプランターへ植えるなど、利用者と触れ合う機会もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例は相談にのっていただいたり推進会議の際に意見をいただく時もある。	町主催の説明会に管理者等が出席しているほか、地域ケア会議に担当職員を派遣している。関係文書のほかメールでも行政情報を得ている。要介護認定申請の際には、担当職員から様々な助言や指導を受け、また災害情報は防災ラジオにより入手している。事業所で解決できない問題が起きた際には、何時でも相談に乗っていただいている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修会での研修や三ケ月に一回、身体的拘束等適正化委員会を開催し協議や指針の確認をしている。欠席職員にも回覧で周知し身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	職員5人による委員会を設置し、議事録を作成し、全体研修会で職員に周知している。スピーチロックなど、グレーゾーンの具体例をあげ、検討し明確化を図り、身体拘束防止の趣旨と対策を徹底している。家族からの了解を得て玄関を防犯上昼夜施錠しており、令和元年度の目標達成計画に掲載し、改善に向け取り組んでいるが道半ばである。居室での転倒予防のセンサーを3名が使用している。	本人の思いや身体の力を活かしながら、鍵をかけずに安全に過ごす支援ができるよう、改めて目標達成計画に掲げ、家族等との協議や施設内での調整、検討に継続して取り組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所の理念である個人個人の意思、人格を尊重し言葉の使い方に気をつけスピーチロックのない支援を心がけている。言葉づかいで気になる時は職員同士で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は新型コロナの影響で研修には行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し理解、納得が得られるよう努めている。いつでも相談にのれる事を家族にも話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	別件で電話した際に要望、意見をいただく事もあり職員で共有し思いに沿う支援に努めている。	家族の来所時や電話等により、家族の要望を聴き取るほか、毎月「城山通信」により、居室担当や看護師から暮らしの様子や健康状態をお知らせしながら意向を伺っている。寒がりなので温かくさせてほしいなど、家族の要望を運営に活かしている。利用者からの、調理や草取り、編み物などの要望にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体研修会やユニット会議での意見は協議し取り入れるように努めている。 日頃の職員との会話からも思いや意見を聞くようにしている。	職員会議や全体研修会のほか、随時、職員の意見や提案を聴き、体操、趣味、外食、ドライブの実施、L字のベッド柵や廊下の手すりの延長など、業務の改善や施設の整備に活かしている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心をもって働けるよう本人の実績、努力に応じ評価されている。 各資格取得は資格手当を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響で外部研修は行えていないが毎月の全体研修会で機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの関係で今年度は町内の同業者の研修は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく暮らしていただくために職員との会話を多くし思いを引き出して安心して暮らしていける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	支払い等の来所時に現状を報告し要望や不安な事を伺い一緒に支援する関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い本人が必要としている支援に沿うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやっていただき助けられたり助けたりし共に暮らしている関係作りを築いている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康状態や問題がある時は電話で報告し一緒に考えてもらったりする時もある。通院は極力家族にお願いし会う機会、関わる機会を増やすようにしている。敬老会には一人一人に家族から手紙やメッセージが贈られ涙を流されていた方もいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染予防のため面会禁止、外出自粛している。	コロナ禍により、知人や友人の訪問はないものの、親戚等から衣類や野菜、山菜、きのこなどの提供がある。買い物は通院時とし、馴染みの美容院にはこれまで5名の方が出掛けていたが、少し控えていただいている。年末年始には、家族と外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の状況、関係、個々の身体状況を考慮し席は決めているが日によって食べたい席で食べている方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴や会話にて希望、意向の把握に努め記録に残し共有している。困難な場合は表情で汲みとるようにしている。	お手伝いやおしゃれ、食べ物の好き嫌いなどの利用者や家族からの情報は、個人記録や申し送りノートに記録しながら、毎月のユニット会議で一人一人について話し合い、職員間で共有している。利用者毎に目線や話し方、聴き取り方などを変え、利用者の心情を大切にしながら思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に聞きとりこれまでと同じ暮らしに近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握しバイタル測定の数値の把握、排泄パターン、食事量、食事形態を把握し支援するよう努めている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を行い現状と問題点についてのケアのあり方について看護師を含め話し合っている。家族に意見等があれば取りいれるよう努めている。	計画の見直しは6ヵ月ごと、モニタリングは3ヵ月ごとに行い、居室担当者の毎月のアセスメントを参考にケアマネが原案を作成している。原案はサービス担当者会議（施設長、管理者、ケアマネ等が出席）で検討を加え、家族等に説明し同意を得ている。医師の指示も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訴えや本人の言葉は介護記録に記入し共有し毎朝毎夕の申し送りで状態を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に家族、本人が必要なサービスを受けれるよう支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は避難訓練、職場体験、傾聴ボランティア等あったが今年度は新型コロナの影響で外部との交流する機会が少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で以前からの病院に通院している方もいるので家族の方が来れない時は電話で報告をしその他は毎月の城山通信で報告している。毎週水曜日は嘱託医の往診もある。	かかりつけ医は、入居後に家族等の了承を得て、協力医に変更し訪問診療を受診している。専門科（皮膚科、眼科、整形外科等）の受診は家族や職員が同行している。歯科は協力医が対応している。インフルエンザの予防接種（職員含む）は、協力医が対応した。協力医は24時間対応していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつでも24時間連絡ができる体制であり報告、相談ができる。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院や家族からの情報を元に退院後の体制はとっている。情報は介護職も共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の意向は契約の段階で一度聞き実際にそうなった場合、再度聞いている。看取りを希望された場合、できる事とできない事を十分説明しカンファレンスで方針の確認、共有を行いユニット全体で取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の対応を本人・家族に説明し同意を得ている。重度化し変化の度に家族の気持ちが揺れ動き、その都度、家族と話し合いをしている。家族の意向に沿って施設内での看取り、病院への搬送を選択している。看取りを希望された場合、医師の診断に応じた看取り計画を作成し、家族の同意を得て終末期のターミナルケアを実施している。最期は家族にも看取ってもらうようにしている。看取り後は、職員で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方にも声をかけている。日中想定、夜間想定、風水害時の訓練を行い水、食料、オムツ等備蓄している。行政の災害時の判断が早いため施設判断の見極めが重要となっている。	年2回の防災訓練（うち1回は夜間想定訓練）のほか、風水害の避難訓練も実施している。2名の地域住民の方の協力を得ている。施設は2次の福祉避難場所の指定を受けている。食糧は3日分を確保し、発電機、ガスコンロ、反射式ストーブを常備している。ハザードマップを掲示し、急傾斜地や避難場所を確認している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務の事を説明している。入浴、排泄はプライバシーを損なわないよう気を配っている。運営理念である一人一人の人格を尊重を念頭におき日々支援している。	個人情報は、書類、パソコンに保存し、パスワード等で管理している。一人一人のこれまでの生活歴や現在の生活状況に対応し、言葉遣い、接し方に配慮し、日々のサービスを提供している。入浴や排泄の支援の際には羞恥心に配慮し、失禁時はそれとなしの声掛けと対応を行っている。入浴、排泄などの異性介助は特に問題はない。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話等で思いや希望を汲み取り支援する一方自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが個々のペースを見極め日々過ごしていただき意向に沿った支援に努めている。見守りを重視し安全面に留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、温度にあった身だしなみをするように声掛けしている。清潔感にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物、行事食の他に誕生日には本人が食べたい物を聞き取りし提供している。 食材を切ったり、盛り付け、片付け等を一緒に行っている。	食材は、地元のスーパー等で購入している。メニューは調理委員会で作成し、調理は職員が主に行っているが、食材を切ってもらったり、味見や盛り付け、片付けなど食事に関する一連の作業は、利用者にも手伝ってもらっている。おやつは買い物品や手作りで対応している。季節の食べ物としては、松茸ご飯や春のメカブなどを、誕生日には本人の希望で食べたいものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態は個々の状態に合わせている。食事量の少ない方や水分量が少ない方は栄養補助食品や飲料を併用している。 食事、水分が足りない方は申し送りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせできない所を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し失禁しないよう早めに声掛け、誘導を行い出来る所は自分でやっていただき自立に向けた支援に取り組んでいる。	排泄チェック表によりパターンを把握し、仕草や様子を見て、案内・誘導している。両ユニット合わせて、夜間のポータブルトイレ利用は3名、自立は6名、布パンツ使用が4名で他はリハビリパンツにパットを併用している。全介助の1名はオムツを使用し、その他に夜間のみのオムツ使用は3名いる。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳を飲んでいただいたりデザートにヨーグルトを取り入れている。 個々に排便コントロールを行い水分を多めに摂っていただきスムーズに排便できるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが体調や気分に応じ対応している。	週2回、月曜日から土曜日の午後に入浴している。入浴日と時間は目安で、利用者個々の希望や体調などにより柔軟に対応している。入浴を嫌がる方でも週1回は入浴している。入浴剤の使用はない。入浴は職員とのコミュニケーションの機会ともなっている。転倒予防の手すり、浴槽のマットを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度の調整を行い快適に入眠できるようにしている。 夜眠れない時はホットミルクを飲んでいただき傾聴し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録に薬の説明、副作用を添付し誤薬がないよう職員同士でチェックし細心の注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナの影響にて外出、面会規制があり難しくなっているが極力気分転換できるよう声掛けをし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で外出支援はできていない。	その日の天気と体調をみて、日向ぼっこを兼ね散歩をしたり、通院の帰りに買い物をしたりしている。また、ホームの玄関先に置いてあるプランターへの花植えや水遣りの際などに外気浴をしている。コロナ禍の前は、桜の花見や紅葉狩り、道の駅、釜石観音様見物などに出掛けていた。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 城山の杜 2丁目

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	だいたいの方が事務所で管理している。欲しい物は依頼買い物で購入している。自動販売機があるので飲みたい時にお金を渡し見守りで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が不穏につながらなければ希望があればやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ気持ちよく暮らしていただけるよう努めている。居室で過ごす時間が多い方はレースのカーテンをし光の調節を行っている。エアコンで湿度、温度設定もしている。	温度や空調は、エアコン、換気扇、加湿器、西日対応のカーテンなどで適正に管理されている。明るい光が入り、整理、清掃が行き届き清潔感がある。壁には活動の写真や書道、塗り絵などの手作りの作品が貼られ、切花など季節が感じられる。広いホールには、食事用テーブル、ソファーが配置され、テレビ、カラオケ、新聞、本箱があり、利用者は、思いの場所で、寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでは気の合う同志で談笑しソファ-は一人の空間になれるよう設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し持ちこんでいただいている。混乱する方もいるので個々の状況に応じて工夫している。	温度等はエアコン、換気扇で管理され、クローゼット、洗面台が設置されている。ベッド・寝具は持ち込みにしており、家族写真やTV、位牌、仏壇など、職員と相談しながら、それぞれに持ち込んでいる。中には、自分で描いた絵を飾っている方もいる。ベッドの位置や飾り物、馴染みの物は、利用者の状況を考慮しながら配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室、浴室には場所や名前を提示し自立に向けた生活ができるよう支援に努めている。		